



2015年3月期 通期

決算説明会資料

2015年5月15日(金)

ミツミ電機株式会社



2015年3月期通期 決算概要 P 2

2016年3月期通期 業績予想と配当 P11

今後の経営戦略 P18

【免責事項】

この資料は投資家の参考に資するため、ミツミ電機株式会社(以下、当社)の現状を理解いただくことを目的として作成したものです。

当資料に記載された内容は、2015年5月15日現在において、一般的に認識されている経済・社会等の情勢及び当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化などの事由により、予告なしに変更される可能性があります。

投資に関するご決定は、当資料に全面的に依拠することはお控えいただき、皆様ご自身のご判断でなされるようお願い申し上げます。



2015年3月期通期 決算概要

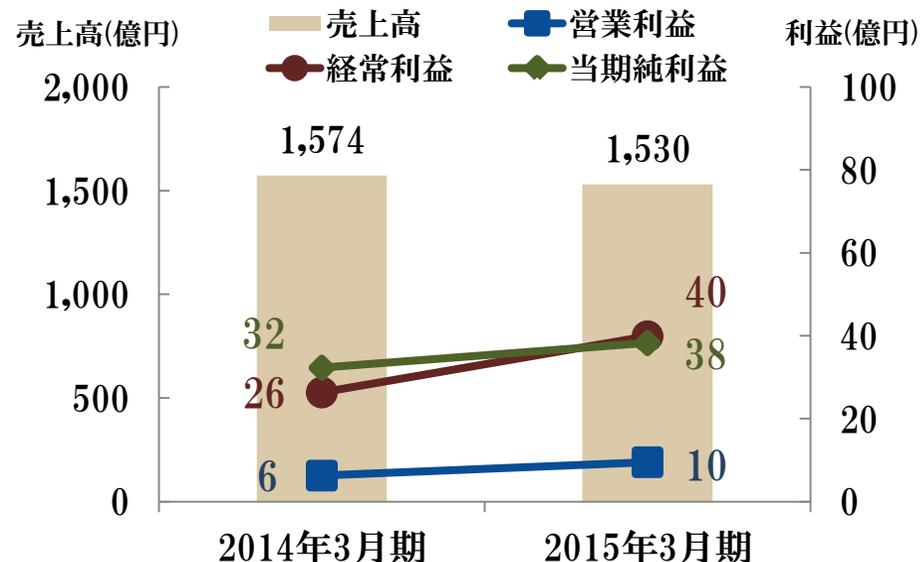
取締役 常務執行役員 本社管理部門担当

齋藤 求

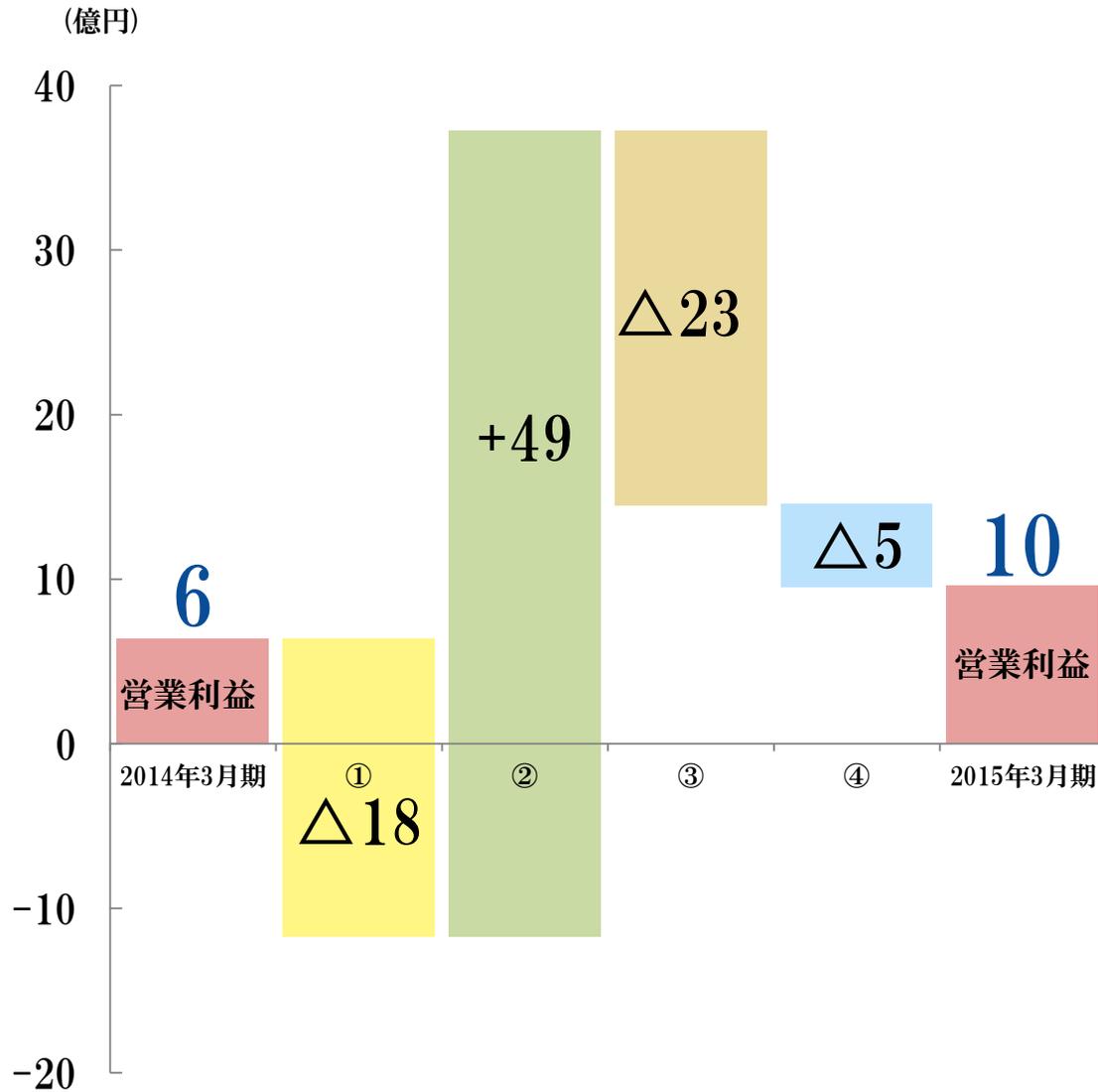
2015年3月期通期業績（前年比較）

	2014年3月期 通期	2015年3月期 通期	増減 (億円)
売上高	1,574	1,530	△43
営業利益	6	10	+3
	0.4%	0.6%	0.2%
経常利益	26	40	+14
	1.7%	2.6%	0.9%
当期純利益	32	38	+6
	2.1%	2.5%	0.4%
為替レート (対米ドル)	99円75銭	109円19銭	9円44銭 の円安

※ 億単位未満を四捨五入



- 売上高は、アミューズメント関連製品は減少、他用途製品は横ばいもしくは増加
- 為替差益35億円を営業外収益として計上（前年の為替差益は17億円）
- 青島ミツミ電機移転に係わる補助金収入14億円と固定資産売却益(天津ミツミ電機分工場等)10億円を特別利益、減損損失11億円を特別損失として各々計上



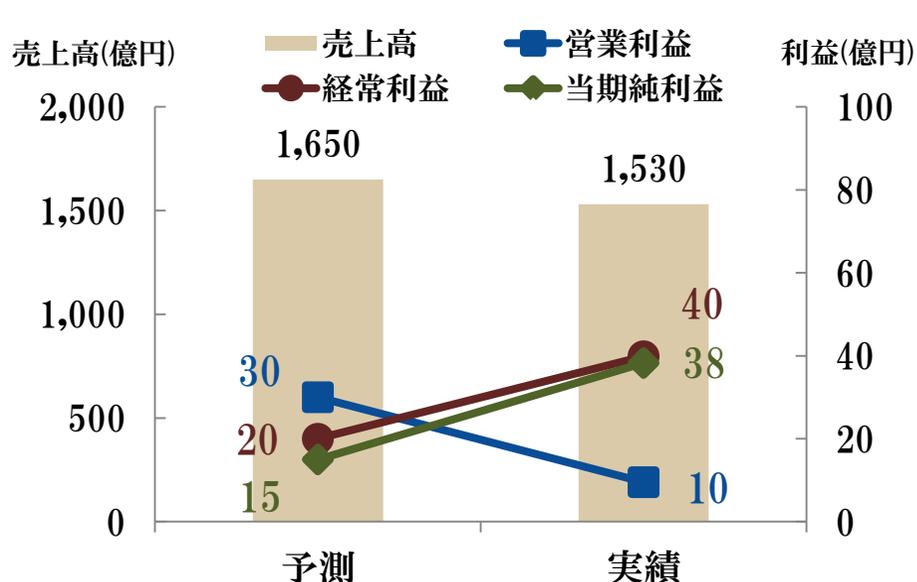
1. 売上高が43億円減少したことによる付加価値の減少 $\Delta 18$ 億円
2. 高付加価値製品構成比の上昇と変動費改善による限界利益率の向上 +49億円
3. 円安と労務費等の上昇による海外事業所運営コストの増加 $\Delta 23$ 億円
4. 減価償却費の増加 $\Delta 5$ 億円

※ 億単位未満を四捨五入

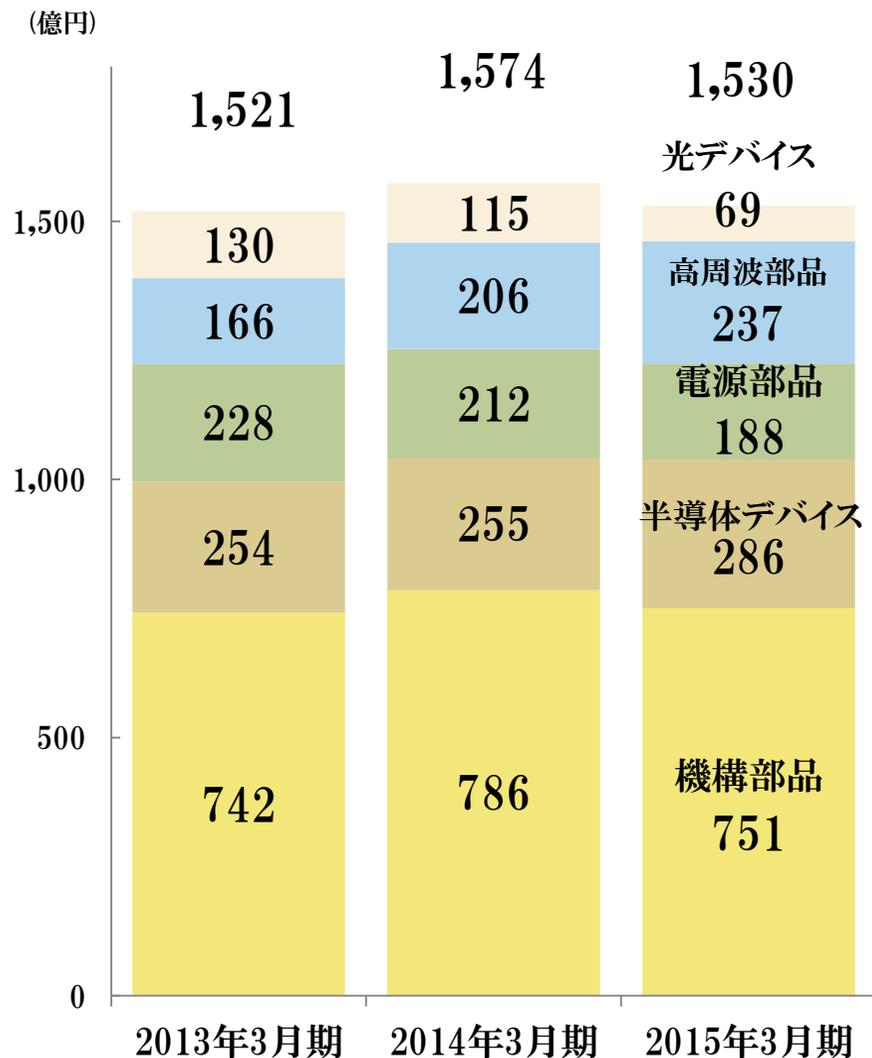
2015年3月期通期業績（予測比較）

		(億円)	
	2015年3月期 通期予測 (2月5日発表)	2015年3月期 通期実績	増減
売上高	1,650	1,530	△120
営業利益	30	10	△20
	1.8%	0.6%	-1.2%
経常利益	20	40	+20
	1.2%	2.6%	1.4%
当期純利益	15	38	+23
	0.9%	2.5%	1.6%
為替レート (対米ドル)	109円00銭	109円19銭	0円19銭の 円安

※ 億単位未満を四捨五入



1. 売上高は、情報通信端末向けが170億円の計画未達成。その他用途は、概ね計画を達成。
2. 営業利益は、売上未達に伴う利益減少を変動費改善と固定費節減で補えず計画比△20億円
3. 為替差益を営業外収益として35億円計上
(予測には為替差益を含んでいない)



※ 億単位未満を四捨五入

光デバイス(前年比△46億円)

アミューズメント関連および情報通信端末用の国内・欧州顧客向けが減少

高周波部品(前年比+31億円)

北米向け車載Wi-Fiモジュール等が増加

電源部品(前年比△24億円)

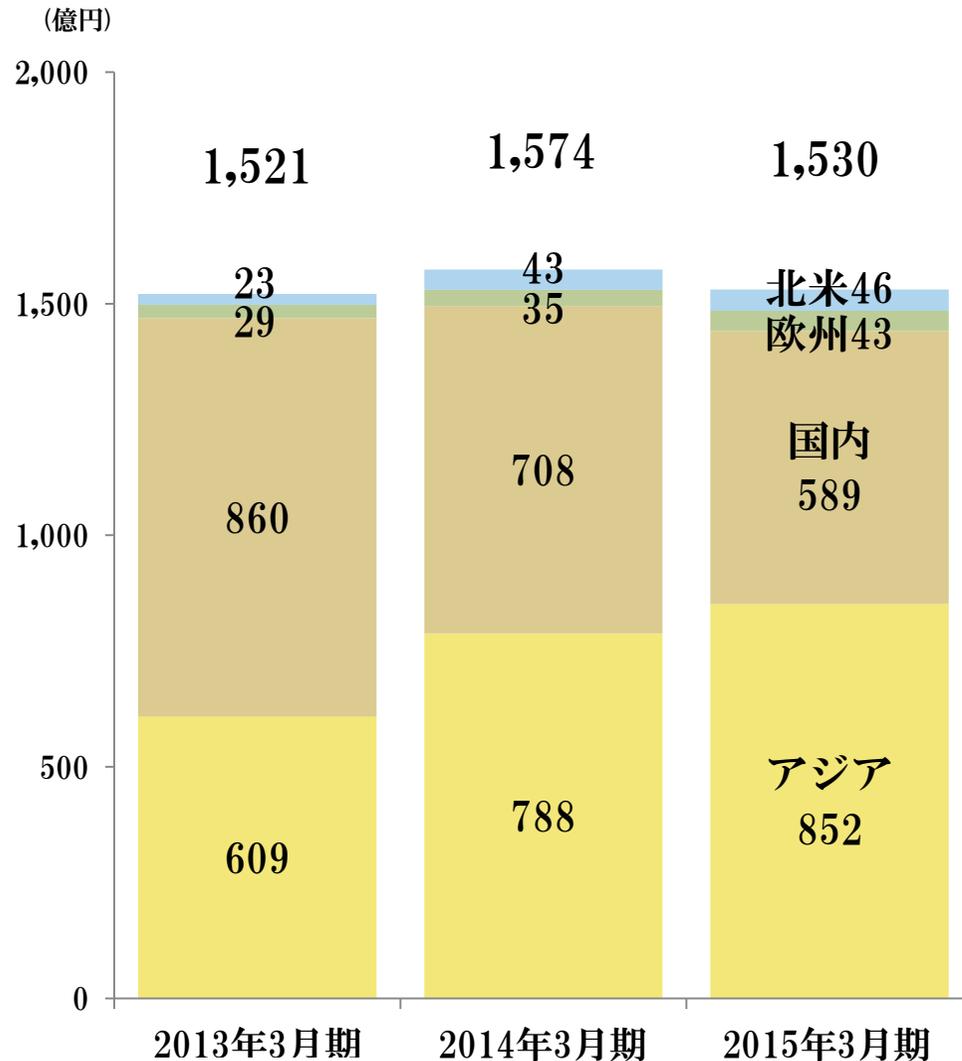
アミューズメント関連および国内情報通信端末向けは減少、生活家電用などの組込型電源は増加

半導体デバイス(前年比+31億円)

日立超LSI社からの事業譲受等により二次電池用保護ICを中心に増加

機構部品(前年比△35億円)

OIS・モーター等の汎用品は増加、アミューズメント関連は減少



※ 億単位未満を四捨五入

1. アジア地域

中華圏顧客向けカメラアクチュエータが増加

2. 国内

アミューズメント関連は減少、その他用途の製品は概ね横ばいか増加

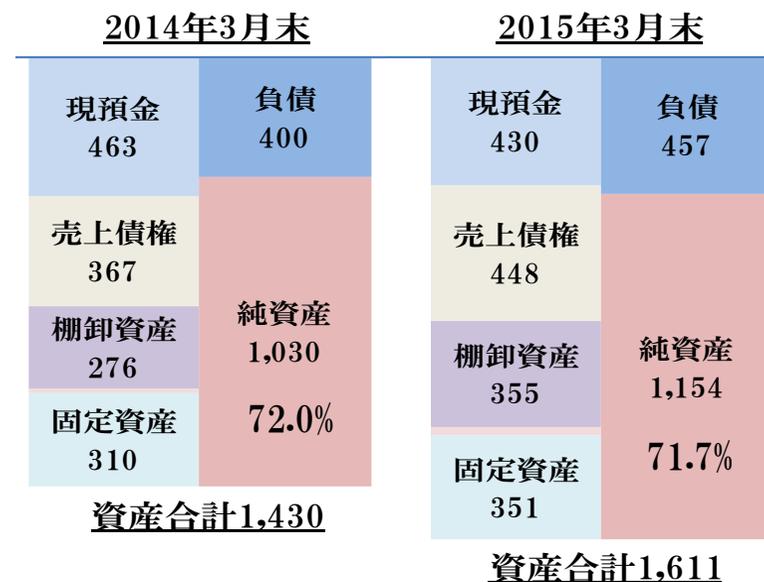
3. 欧州・北米地域

車載関連製品が主体で、特に非日系顧客向けが増加

(億円)

	2014年3月末		2015年3月末		増減
	金額	構成比	金額	構成比	
現金及び預金	463	32.4%	430	26.7%	△33
受取手形・売掛金	367	25.7%	448	27.8%	+81
棚卸資産	276	19.3%	355	22.0%	+79
その他	13	0.9%	27	1.7%	+13
流動資産	1,120	78.3%	1,260	78.2%	+140
固定資産	310	21.7%	351	21.8%	+41
資産合計	1,430	100.0%	1,611	100.0%	+181
支払手形・買掛金	183	12.8%	213	13.2%	+30
借入金	63	4.4%	103	6.4%	+40
その他	94	6.6%	96	6.0%	+2
流動負債	340	23.7%	411	25.5%	+72
固定負債	60	4.2%	45	2.8%	△15
負債合計	400	28.0%	457	28.3%	+57
株主資本	1,168	81.7%	1,226	76.1%	+58
その他包括利益累計	△138	-9.6%	△72	-4.5%	+66
純資産合計	1,030	72.0%	1,154	71.7%	+124
負債・純資産合計	1,430	100.0%	1,611	100.0%	+181
自己資本比率	72.0%		71.7%		-0.3%

※ 億単位未満を四捨五入



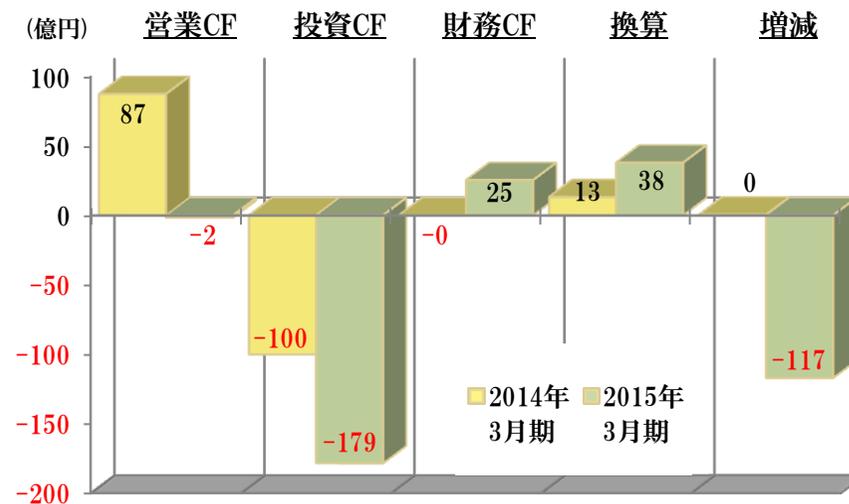
- 事業内容の変化により、現預金が33億円減少し借入金が40億円増加した。
 - ① 年間のシーズナリティが縮小
(第4四半期売上高は対前年同期比35億円増加)
 - ② 高付加価値製品の構成比率が増大
(限界利益率は対前年比3%改善)
- 資産・負債の構成および自己資本比率は良好な水準を維持している。

(億円)

	2014年 3月期	2015年 3月期	増減
税金等調整前 当期純利益	37	48	+11
減価償却費	65	71	+6
売上債権	△12	△57	△45
棚卸資産	23	△67	△90
仕入債務	△33	7	+40
その他	7	△5	△12
営業活動によるCF	87	△2	△89
有形固定資産取得	△103	△120	△17
その他	3	△59	△62
投資活動によるCF	△100	△179	△78
フリーCF	△13	△180	△168
財務活動によるCF	△0	25	+25
換算差額	13	38	+25
現金・現金同等物増減	0	△117	△118

※CF:キャッシュフロー

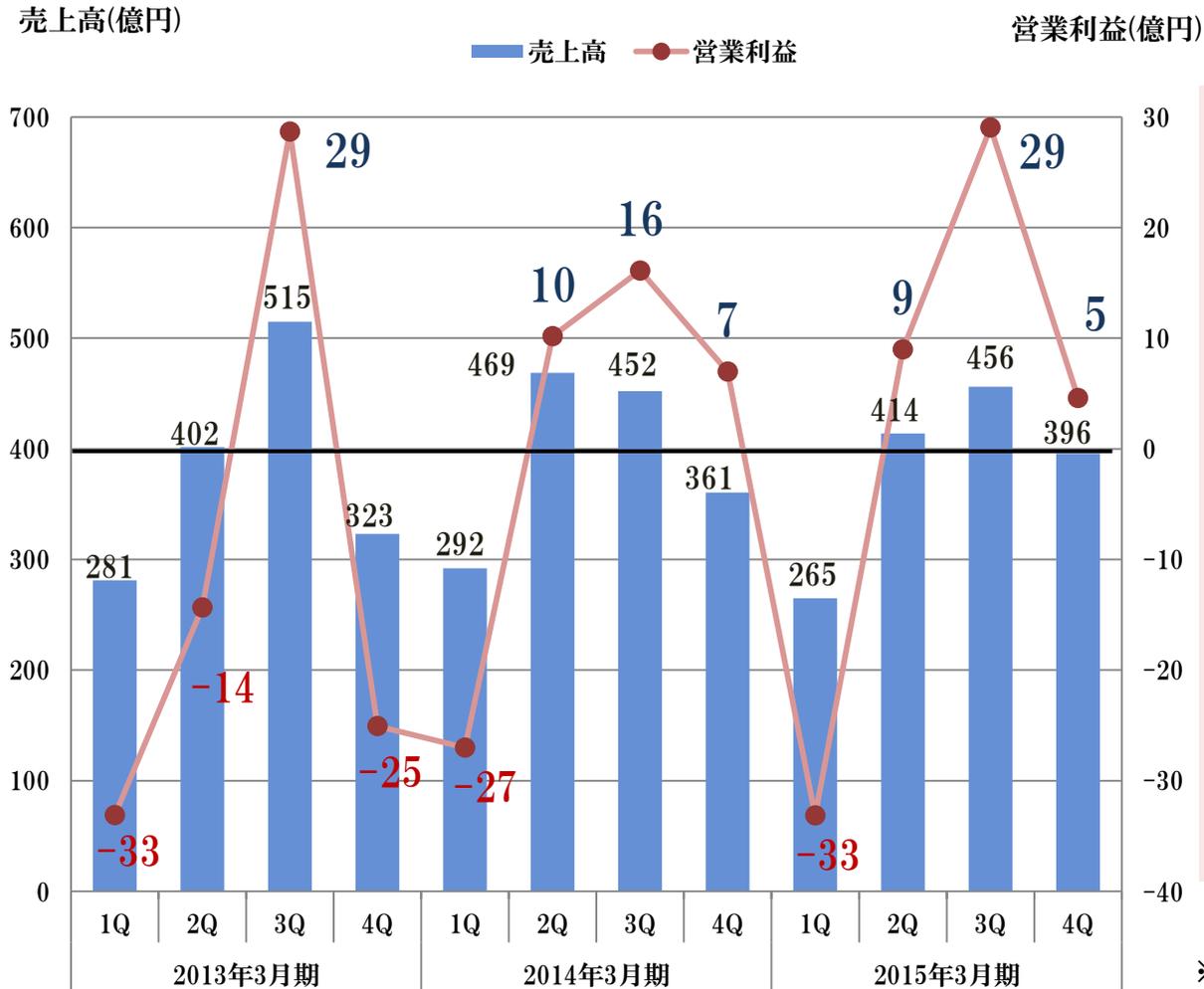
※ 億単位未満を四捨五入



1. 営業活動によるキャッシュフローは、運転資金が増加したことにより89億円減少
2. 投資活動によるキャッシュフローは、設備投資の拡大により17億円減少
3. フリーキャッシュフローの減少に対応して、短期借入を実施

※ 現金・現金同等物減少117億円には、定期預金の預入90億円を含む

四半期毎の売上高・営業利益



1. 売上高

季節変動が縮小傾向にあり、特に4Qの売上高が増加している。

1Qの受注低下傾向は当面解消しない。

2. 営業利益

高付加価値製品が増加し、生産工場・設備の年間稼働率も向上している。

損益分岐点が対前年比で約50億円低下し、営業利益は僅かに増加した。

1Qの受注減少による営業損失の発生は継続している。

※ 億単位未満を四捨五入



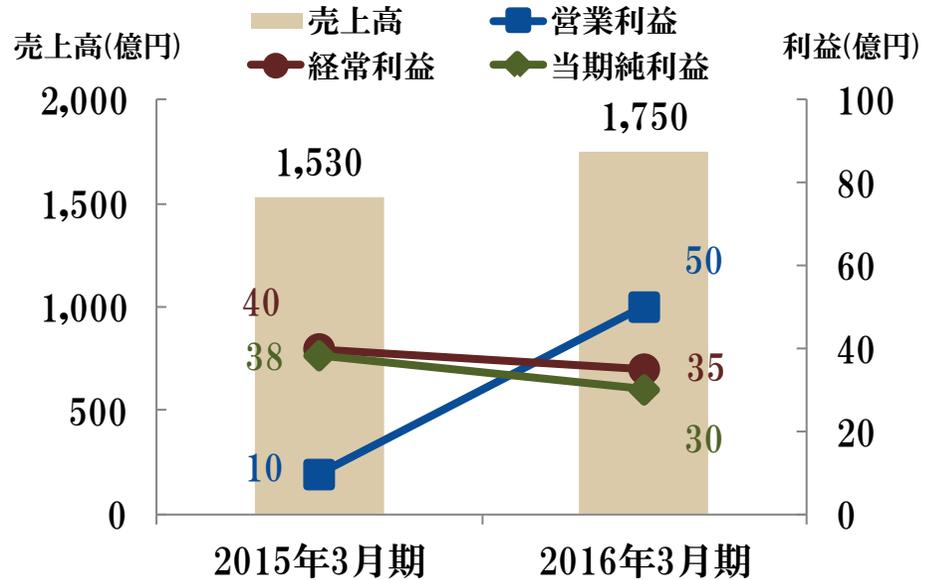
2016年3月期通期 業績予想と配当

取締役 常務執行役員 本社管理部門担当

齋藤 求

2016年3月期通期見通し

	(億円)		
	2015年 3月期 通期実績	2016年 3月期 通期予測	増減
売上高	1,530	1,750	+220
営業利益	10	50	+40
	0.6%	2.9%	2.2%
経常利益	40	35	△5
	2.6%	2.0%	-0.6%
当期純利益	38	30	△8
	2.5%	1.7%	-0.8%
為替レート (対米ドル)	109円19銭	115円00銭	5円81銭 の円安

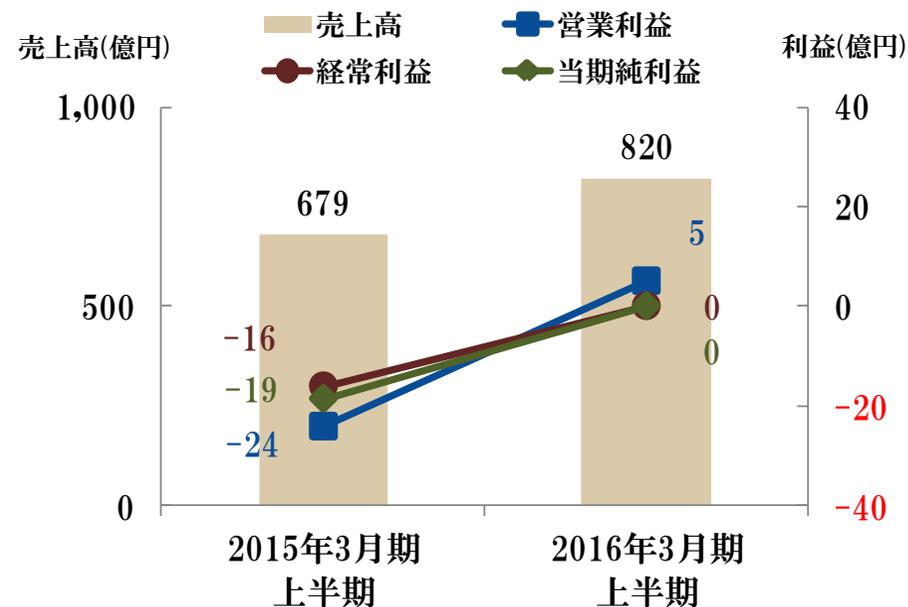


1. 売上高は、情報通信端末向けおよび車載向けを中心に220億円の増加を計画
2. 営業利益は、事業拡大に向けた設備投資と一般経費の増加による損益分岐点の上昇を見込み、40億円の増益にとどまる計画

※ 億単位未満を四捨五入

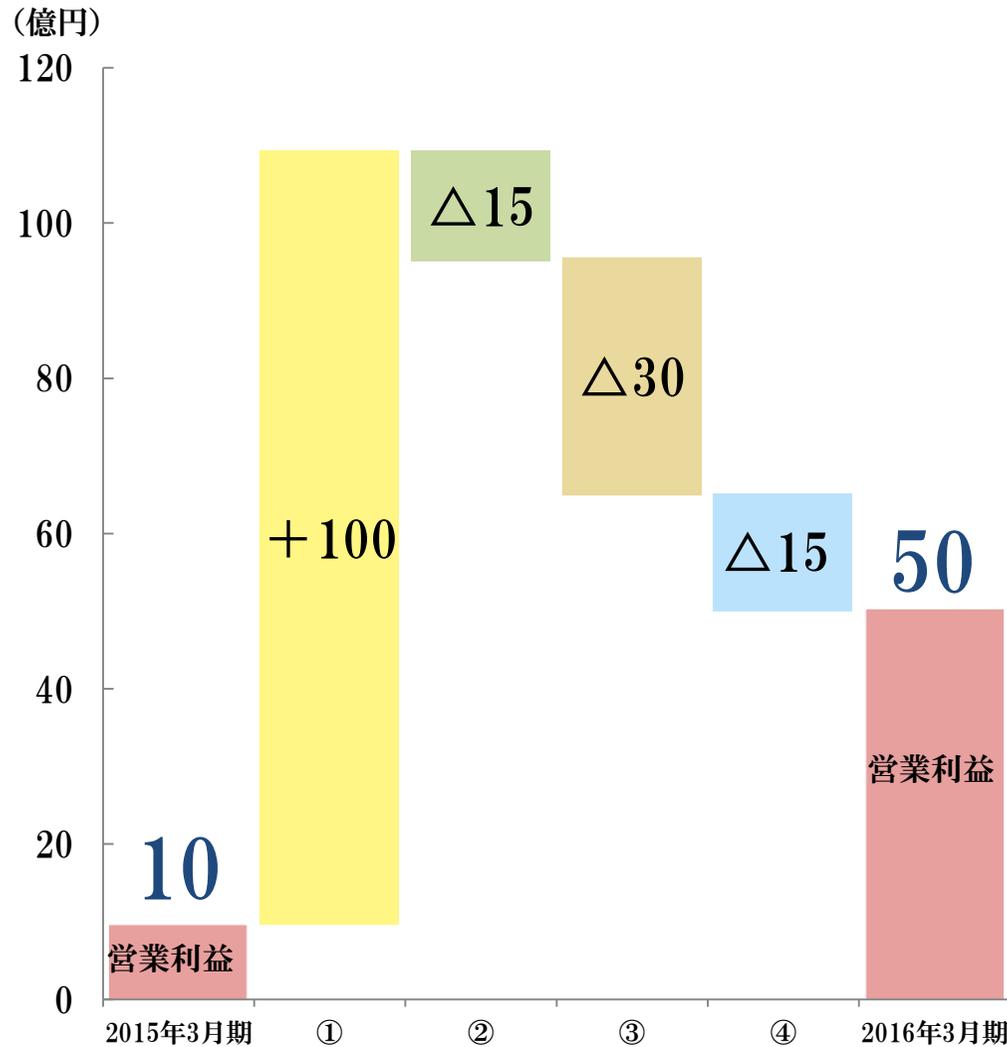
2016年3月期上半期見通し

	(億円)		
	2015年 3月期 上半期 実績	2016年 3月期 上半期 予測	増減
売上高	679	820	+141
営業利益	△24 -3.6%	5 0.6%	+29 4.2%
経常利益	△16 -2.4%	0 0.0%	+16 2.4%
四半期 純利益	△19 -2.7%	0 0.0%	+19 2.7%
為替レート (対米ドル)	102円52銭	115円00銭	12円48銭 の円安



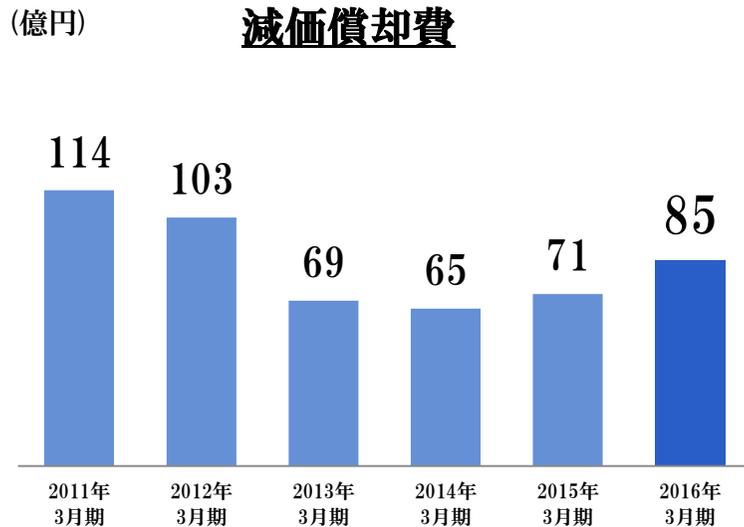
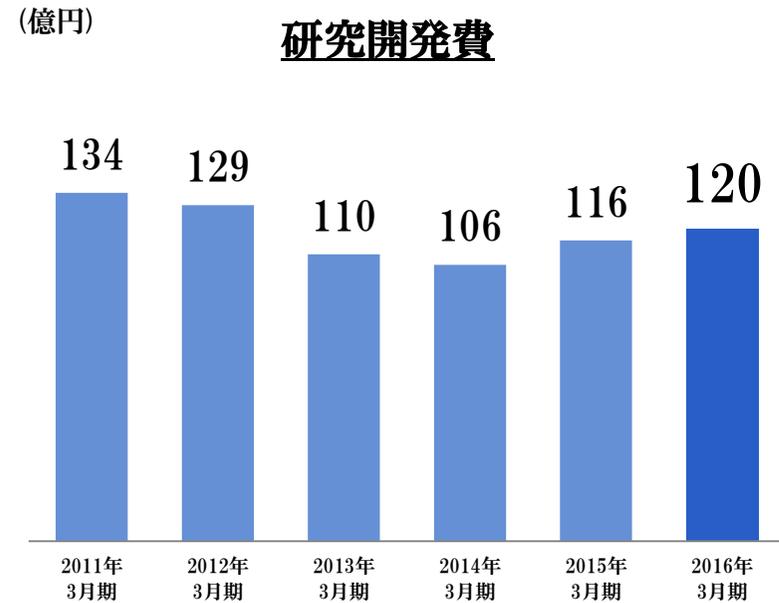
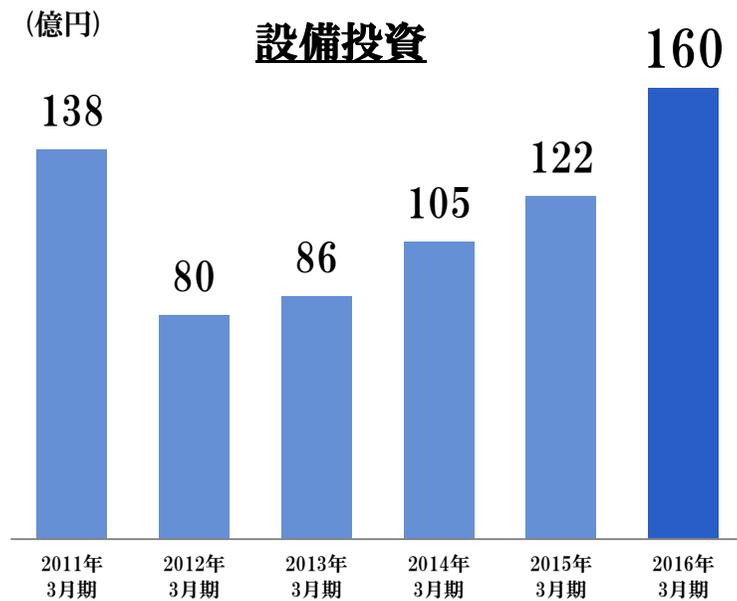
1. 売上高は、情報通信端末向けを中心に141億円の増加を計画
2. 営業利益は、円安や労務費高騰に加え、事業拡大のための拡大投資を積極的に行うため、29億円の改善にとどまる計画

※ 億単位未満を四捨五入



※ 億単位未満を四捨五入

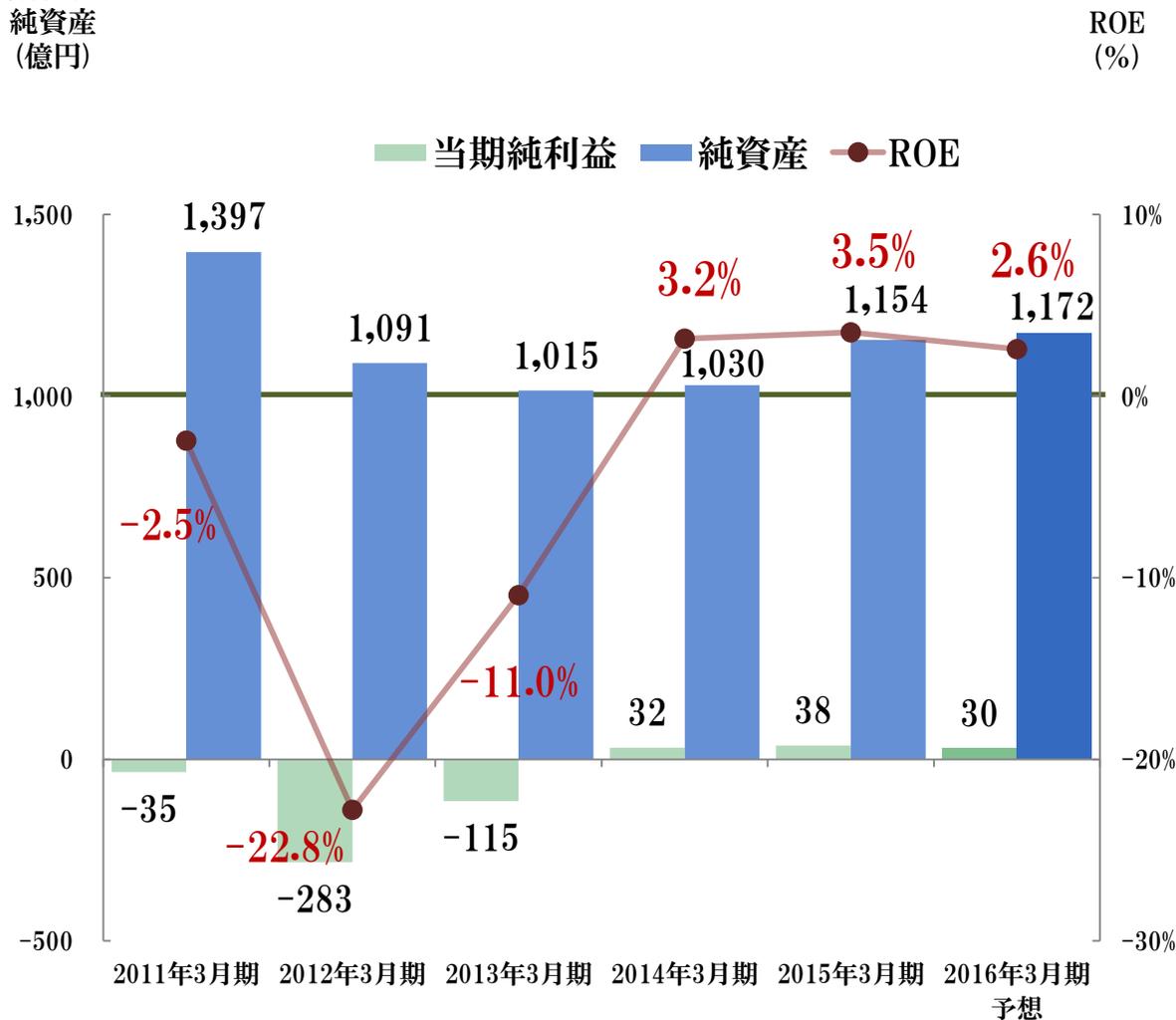
1. 売上が220億円増加することによる付加価値の増加
+100億円
2. 売価下落と変動費改善の差による付加価値の減少
△15億円
3. 生産能力の増強による一般経費の増加
△30億円
4. セブミツミでの工場新設や設備投資の増額による減価償却費の増加
△15億円



1. 設備投資は、アクチュエータを中心とした受注増に対応して増額。セブミツミでは約100億円を投資して新工場を建設
2. 減価償却費は、新工場稼動に合わせて下半期に増加する計画
3. 研究開発費は、微増を計画

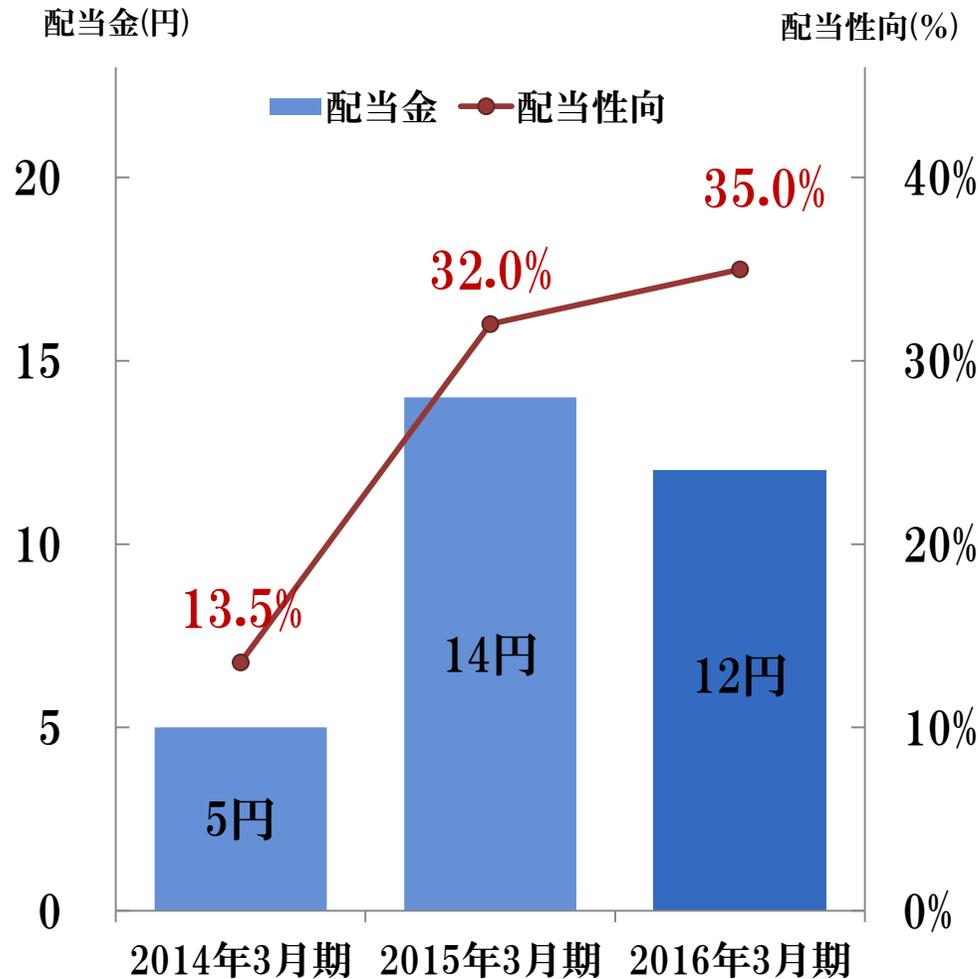
※ CFベースを記載 億単位未満四捨五入

当期純利益
純資産
(億円)



※ 億単位未満を四捨五入

1. 当期純利益は、2012年3月期からの事業構造改革の実施により黒字が定着した。しかしながら、同業他社と比較して額・率ともに低水準にとどまっている。
2. ROEも同様に、2～3%台で低迷している。
3. 当社の目標とする経営指標である「連結業績を基準としROE10%以上」を達成するため、売上高の拡大による利益の拡大を推進する。



1. 2016年3月期の一株当たり配当は12円、配当性向は35%を予定いたします。
2. 当社の配当の方針である「連結業績に基づいた配当性向30%以上をめど」に変更はありません。



今後の経営戦略

代表取締役社長

森部 茂

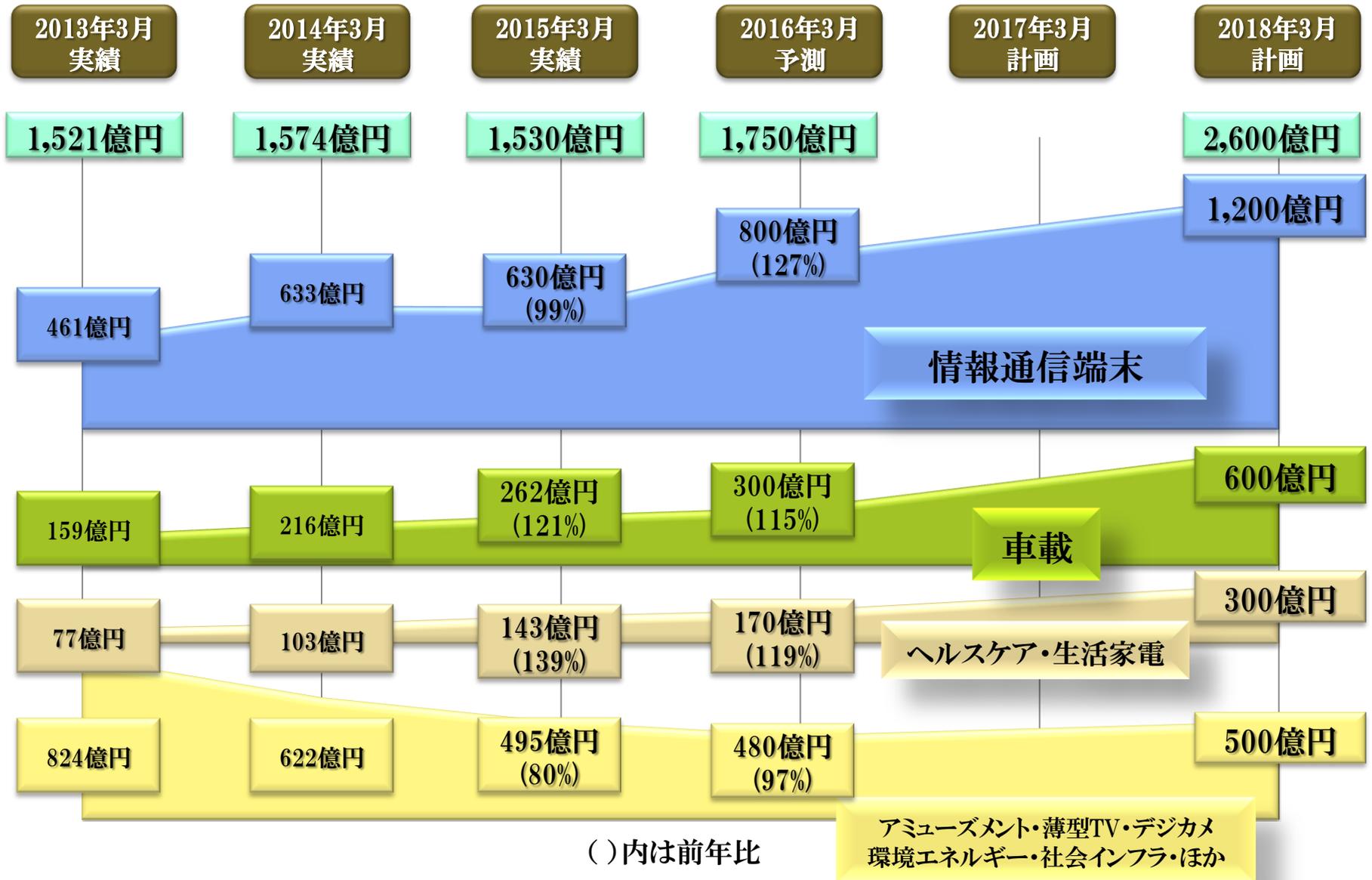
中期目標

事業拡大に注力し、売上高3,000億円を回復する

方針

売上高の拡大による規模の利益を獲得する

1. 世界中で高い市場占有率を持つ製品群に経営リソースを集中します
 - (1) 技術リソースの集中により他社に先駆けて新技術開発と市場投入を行います
 - (2) 大型投資を行い、市場拡大に先行して生産能力を拡大します
2. AV・通信市場で培った技術を応用し、車載・ヘルスケア市場で新たな事業を創出していきます



情報通信端末

2015年3月期実績630億円、中期目標1,200億円

1,200億円に向けた事業拡大計画

1. 情報通信端末向け売上高
2. カメラモジュール用アクチュエータ市場動向
3. OIS事業
4. 高性能オートフォーカス(AF)アクチュエータ事業
5. アクチュエータ事業拡大

情報通信端末

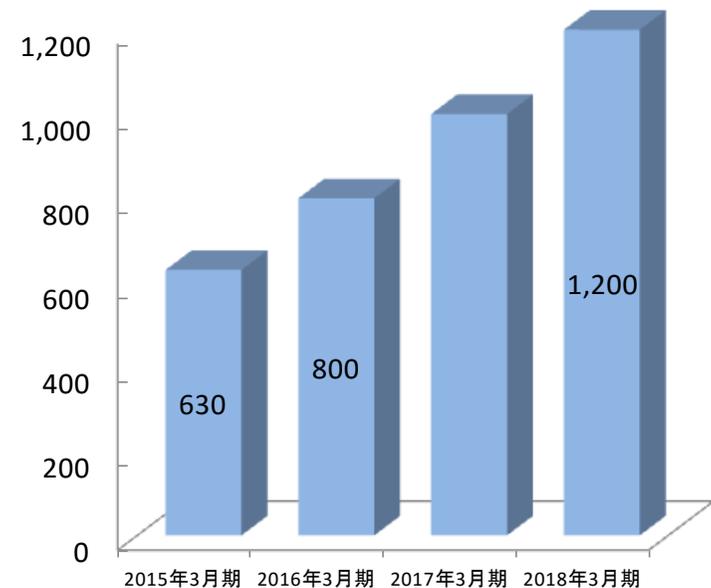
2015年3月期実績630億円、中期目標1,200億円

1. 情報通信端末向け売上高

2016年3月期は800億円、
2018年3月期は1,200億円にします

- ① 中華圏向けアクチュエータ売上を
2016年3月期は前年比4倍に
拡大します
- ② OISのトップシェアを維持します

情報通信端末売上高



情報通信端末

2015年3月期実績630億円、中期目標1,200億円

2. カメラモジュール用アクチュエータ市場動向

(単位:億個)

	2014年	2015年	2016年	2017年
アクチュエータ全体	12	14	18	20
OIS	1	2.2	4.5	6
高性能AF	2	5	7	8

高性能AF(オートフォーカス) : Bi-Direction Type、Closed Loop Type

情報通信端末

2015年3月期実績630億円、中期目標1,200億円

3. OIS事業

計 画：2016年3月末にOISの生産能力を2倍にします
主要セットメーカーのデザインインが完了

(1) 世界で初めて開発・量産したメーカーとして、蓄積してきた
技術ノウハウが強み

① 他社性能を上回る振れ補正角度を実現

(2) 当社はカメラモジュール量産実績がある

① 中華圏カメラモジュールメーカーに対して、OISの技術・生産の支援が可能

② カメラ技術を生かしたOISの最適設計

情報通信端末

2015年3月期実績630億円、中期目標1,200億円

4. 高性能オートフォーカス(AF)アクチュエータ事業

計画：市場シェア30%獲得

(1) 高性能AFは前年2億個が5億個に拡大すると想定

- ① Bi-Direction Type(中点静止型)
- ② Closed Loop Type(位置検出型)

(2) 他社性能を上回る省電力・フォーカススピードを実現
世界で初めてBi-Directionを開発した実績

情報通信端末

2015年3月期実績630億円、中期目標1,200億円

5. アクチュエータ事業拡大

設備投資計画 250億円

(2016年3月期100億円、以降2年間で150億円)

- (1) 生産ラインの自動化を進めます
- (2) セブミツミに新工場を建設し、10月から稼働します

車載

2015年3月期実績262億円、中期目標600億円

600億円に向けた製品戦略

1. アンテナ製品
2. 車内電装ユニット(インフォテインメント向け機器)
3. 衛星デジタル放送用チューナ(北米向け)および通信モジュール
4. 運転支援システム(ADAS)向け部品

車 載

2015年3月期実績262億円、 中期目標600億円

1. アンテナ製品

アンテナ市場規模は、2020年までに2,400億円(現在の2倍)に拡大すると想定し、世界シェア15%を目指します

- (1) 当社は、送受信機も販売しており、電波の入口から出口までを技術対応出来ることが強み
- (2) あらゆるアンテナを供給し、2025年に世界シェア30%を目指します

2. 車内電装ユニット(インフォテインメント向け機器)

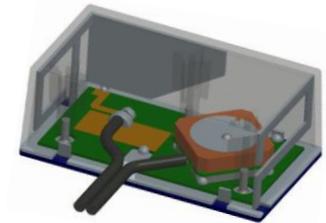
マイコン制御技術・急速充電を始めとする電源技術・加飾成型技術などの豊富な設計ノウハウを活用した製品を開発し事業拡大

車 載

2015年3月期実績262億円、 中期目標600億円

3. 衛星デジタル放送用チューナ(北米向け)および通信モジュール

- (1) 北米向け衛星デジタル放送用チューナの市場シェアを50%に拡大します
- (2) 緊急通報サービスシステム向けに車載用LTE通信モジュールを開発・量産化し、2020年に世界シェア10%を目指します



車載用LTE通信モジュール

4. 運転支援システム(ADAS)向け部品

今後成長が期待できる新分野で新製品を投入

- (1) レーザレーダ用部品
- (2) HUD用MEMSミラー、ミリ波レーダ用IC、車載カメラモジュール

半導体事業

今後の注力製品

1. 電池残量計IC (FG-IC)

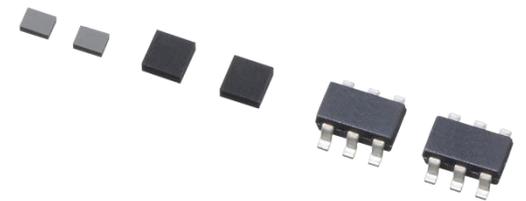
高精度の製品により、寡占市場への参入を果たしました
中華圏スマートフォンおよびタブレットメーカーへ納入を開始

2. OTP搭載電池保護IC (One Time Programmable read only memory)

- ① OTPによるランク展開で、納期を約1/4に短縮
- ② 2in1パッケージ化で、FETを含めた精度の向上
- ③ ランク展開・バラつき補正を電池モジュール基板上で実現

3. センサ

各種センサとアナログフロントエンドICのワンパッケージ化を推進
(圧力センサ、近接照度センサ、温度センサ、電流センサなど)



OTP搭載電池保護IC

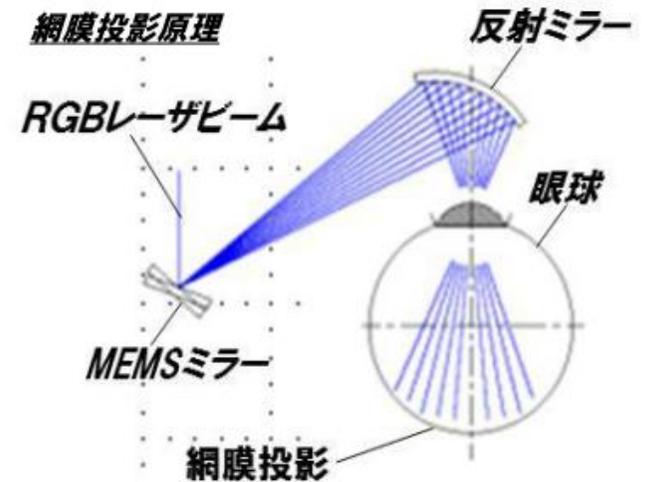
MEMS事業



MEMSミラーの技術を応用した事業化への取り組み

1. 視覚補助器 (MEMSミラー、ドライバ・制御ICなど)

MEMS技術を応用し、網膜に直接投影。
スマートグラスに先立ち、視覚補助器用
MEMSミラーを2016年3月までに実用化。



2. HUD (MEMSミラー、ドライバ・制御IC、PGU)

拡張現実 (AR) HUD向けなど、実績のある国内外のTier1メーカーより
引き合い多数

HUD: Headup Display
PGU: Picture Generating Unit



IRに関する問い合わせ先

**ミツミ電機株式会社
総務部 広報・IRグループ
TEL:042-310-5160**